

## 地 域 再 生 計 画

- 1 地域再生計画の名称  
水と緑と万葉の地の再生計画
- 2 地域再生計画の作成主体の名称  
栃木県、佐野市
- 3 地域再生計画の区域  
佐野市の全域
- 4 地域再生計画の目標

### 【地理的特性】

佐野市は、栃木県の南西部に位置し、平成17年2月28日に旧佐野市、田沼町、葛生町が合併し、人口約12万5千人の新佐野市となり、県内第4位の人口となった。面積では、那須塩原市に次ぐ県内2位となっている。合併前の特色としては、旧佐野市は、関東平野の北西縁部の平坦な地形であり、例幣使街道の宿場町として古くから交通の拠点として栄え、現在でも南北に延びる東北自動車道と東西に延びる国道50号線が佐野インターチェンジにより交差する交通の要所となっており、近年、佐野新都市整備事業として商業の活性化のため、東北自動車道佐野インターチェンジに近接して、アウトレットショッピングセンターなどの大規模商業施設を整備し、佐野ラーメンを核とした中心商店街との相乗効果により、首都圏からの集客力が高い市街地エリアとなっている。一方、旧田沼町と旧葛生町は、総面積の7割以上が森林となっており、特に、旧2町の北部は、山岳・森林地帯で根本山、熊鷹山から氷室山など足尾山地の一角として豊かな自然と林業の盛んな山村エリアとなっている。

### 【新市合併】

この旧1市2町が合併し、新市として合併する際の方針としては、緑豊かな森林や美しい清流等、自然環境に恵まれた地域と、都市地域を併せ持った地域として、歴史や文化の特性を共有し、これらを活かした地域運営の展開と活性化を目標としている。歴史・文化的には、旧1市2町の関わりは古く、生活の跡は、先土器時代（約1万年前）までさかのぼることができるが、万葉集巻十四東歌で「下毛野安蘇の河原よ石踏まず 空ゆと来ぬよ汝が心告れ」と詠まれた大和朝廷時代の下野の国安蘇が旧1市2町の安蘇郡としての結びつきが確認でき、合併に至るまでの歴史、文化の面で共通する点が多々見られる。このように、異なった地域特性と共通する歴史を活かし、魅力と活力にあふれた新市を目指して、新都市計画に「育み支え合うひとびと、水と緑と万葉の地に広がる交流拠点都市」を将来像として位置付けている。

このため、当地域再生計画は、合併元年の施策として、将来像に向かって今後の新佐野市の振興を図るうえで欠かせないものである。

### 【都市と山村のネットワーク】

市街地エリアと山村エリアを結ぶネットワークとしては、「道の駅 “どまんなかたぬま”」や整備中の北関東自動車道の田沼ICにあわせて周辺道路の整備が進んでおり、東北自動車道川口JCから50分で佐野ICや田沼ICを結ぶ首都圏との広域な交通ネットワーク化の実現により、都市エリアと山村エリアへネットワーク化が確立し、都市からの入り込みが増えることが期待されている。

### 【山村エリアの整備】

山村エリアにおいては、豊かな自然を生かし、都市住民の自然とのふれあいの場として、各種拠点施設や自然休養施設が整備されている。今回、道整備交付金で整備を実施する市道9007号線（昭和62年3月4日認定）と林道近沢線（地域森林計画平成14年度～平成18年度）は、沢沿いの少ない平地を利用して山裾まで広がる山村エリア居住地の飛駒町と作原町を尾根越えで連絡しているが、狭隘な道であり、合併の際、旧田沼町が2町を連絡する最重要な路線として改良事業を計画している。山村エリアの拠点施設として、飛駒町には、クラインガルテン（体験農場）や紙すきが体験できる宿泊施設を備えた根古屋森林公園があり、また、作原町には、作原沢入線（地域森林計画平成14年度～平成18年度）周辺の自然休養やハイキングの基地として、温泉付宿泊施設の蓬山口グビレッジ、宿泊型野外活動施設である作原グリーンスポーツセンターがある。群馬県東村と佐野市作原町両地区の行き止まりの解消として開設工事が進められている作原沢入線（地域森林計画平成14年度～平成18年度）の沿線では、蓬萊神社園地、学林沢園地や利根川水系100選の滝に指定されている三滝を始めとしていくつもの滝とハイキングコースがあり、自然探勝のために年間30万人の入込み者が推定される景勝地となっている。また、林道法面に、3ヶ所の湧水地があり、自然水を持ち帰るために水汲みの順番待ちをしている人も多く見られる。これらの山村エリアの核となる施設は、市道9007号線（昭和62年3月4日認定）と林道近沢線（地域森林計画平成14年度～平成18年度）の改良、作原沢入線（地域森林計画平成14年度～平成18年度）の開設により一体的な道路ネットワークができることから、それぞれの特徴を活かした施設の連携が図れ、都市エリアからの入込み者数を増やすことが可能となる。さらに、山村エリアの拠点施設では、都市エリア住民とのふれあいのため、自然体験イベント等を実施することにより、都市エリアと山村エリアの住民の一体化が進むことが期待されている。

（目標1）市道9007号線と林道近沢線の整備による飛駒町と作原町の連絡  
（連絡時間10分の短縮と一般車の安全な走行）  
（通行量の10%の増加）

（目標2）林道作原沢入線利用区域森林の公益的機能の向上のための森林整備  
（利用区域内森林を10%整備（保育、間伐等）する）

## 5 目標を達成するために行う事業

### 5-1 全体の概要

佐野市北部山村エリアにある自然を生かした拠点施設として、飛駒町には、体験型宿泊施設の根古屋森林公園があり、作原町には、作原沢入線（地域森林計画平成14年度～平成18年度）周辺の自然探勝基地として、温泉付き宿泊施設の蓬山口グビレッジや宿泊型野外活動施設である作原グリーンスポーツセンターが整備されている。今回、道整備交付金により、都市エリアの住民を安全で快適に山村エリアの拠点施設に誘導するため、山村エリアの道路ネットワークを整備する。飛駒町と作原町を連絡している市道9007号線（昭和62年3月4日認定）と林道近沢線（地域森林計画平成14年度～平成18年度）は、狭隘な峠越えの道であり、一般車が安全なすれ違いができない状況にある。急峻な峠部分については、平成15年にふるさと林道緊急整備事業によりトンネルのみ完成しているが、今回、道整備交付金により林道近沢線（地域森林計画平成14年度～平成18年度）の改良と市道9007号線（昭和62年3月4日認定）の改良により、一般車の安全な通行が確保できるため、飛駒町と作原町の連絡により、異なる3つの目的をもった宿泊拠点

施設の連携が可能となる。飛駒町と作原町の連絡については、旧田沼町が振興計画に重要な位置付をしており、合併新市としても、それぞれ特色の異なる滞在拠点施設を連絡することにより、両町の施設の相乗効果による都市エリアや首都圏からの利用者数のさらなる増大が両地域の振興と佐野市全体の一体化に繋がると期待している。

また、林道作原沢入線（地域森林計画平成14年度～平成18年度）は、森林利用区域1,250haの広大な自然豊かな森林となっており、蓬山ログビレッジを基地として、一般車で気軽に訪れ、林道周辺の蓬萊山園地や学林沢園地、ハイキングコースなど自然探勝が可能となるよう整備を進める。特に、車を止めて林道脇の自然水を汲みにくる方や林道をハイキングする方も多いことから林道の通行の安全を図るとともに、渡良瀬川上流の水源地でもあることから、森林の整備を積極的に進めて、森林の持つ水源かん養機能や保健休養機能などの公益的な機能の向上も図る。

さらに、これらの道路ネットワーク整備に併せて、佐野市の広報やホームページで山村エリアの自然を紹介し、各拠点施設において、都市エリアの住民と山村エリアの住民のふれあいのためのイベントを開催して、異なった地域特性を持った佐野市全体の一体化を図る。

#### 5 - 2 法第4章の特別の措置を適用して行う事業

- ・事業主体 市道 佐野市  
林道 栃木県、佐野市
- ・施設の種類 市道  
林道
- ・事業区域 いずれも佐野市
- ・事業期間 市道 平成18年度～平成21年度  
林道 平成17年度～平成21年度
- ・事業費 総事業費 16億9千万円（うち交付金8億4千5百万円）  
市道 1億1千万円（うち交付金 5千5百万円）  
林道 15億8千万円（うち交付金7億9千万円）
- ・整備量 市道 0.5km  
林道 6.1km

#### 5 - 3 その他の事業

該当なし

#### 6 計画期間

平成17～21年度

#### 7 目標の達成状況に係る評価に関する事項

佐野市が、4に示す地域再生計画の目標について計画終了後に必要な調査を行い、状況を把握・公表するとともに、達成状況の評価、改善すべき事項の検討等を行うこととする。

#### 8 地域再生計画の実施に関し当該地方公共団体が必要と認める事項

該当なし